



キャリアアドバイザーに聞いた!

転職サワセス へ田道

ROAD TO "TENSYOKU SUCCESS"
vol.25

ADVISER

キャリアコンサルタント
村本麗子氏



ビジネススクール東京・札幌の上席講師として年200回以上の授業に登壇。公共団体や企業への研修の提供や、企業、経営者、起業家へのコンサルティングや講演など、活動は多岐にわたる。脳科学理論をベースとしたコーチングでは、北海道における第一人者。株式会社ヒト・ラボ 代表取締役。

転職回数が多いと「採用しても長く続かない人と判断されてしまうのでは?」と不安になってしまつて…。
そんな悩みの声を耳にしました。転職回数の多さをマイナスと判断されないために、どう気をつけねばよいのでしょうか。

転職を通じて得たものをどう生かせるかを伝えて。

転職にはさまざまな理由があります。前向きな理由だけでなく、ネガティブな理由で転職していたとしても、それすべての経験があるから今があるので考えましょう。

これまで、転職経験を通じて得たものは何でしょう? 「前の会社ではこんな知識やスキル、ノウハウを身に付けました。御社に入社した際にはこんなふうに生がせます」という自己アピールができれば、転職経験は不利には働きません。今までの成果、そこに至るまでの働きかけや取り組みを、次の職場で「再現性」があるものとして伝えられるとよいですね。

自分で振り返ってみて、ネガティブな転職だったと思える経験でも、きっと何か得たものがあるはず。それを自分の言葉で語れるようにしてみましょう。

「今度こそ長く働きたい」のアピールには理由も添えて。

人にとつて、仕事は自己実現の場でもあります。「この会社で働くことは、自分にとっての自己実

転職回数よりも大切な
「会社が何を求めているか」

「何回くらい転職をしていると、転職回数が多いと判断されるのですか」という質問をされることもありますが、すでにしてきた転職の回数を気にして、あまり意味がありません。

日本では一つの会社に長く勤めることを美德と考える風潮がありますが、採用担当者は、転職の回数よりも「この人はうちの会社にどんな貢献をしてくれるのだろう」と考えます。これまでの転職経験が、どんな形で会社への貢献につなげられるのかを伝えていきましょう。

現にもなる」と考えていることを伝えられれば、ミスマッチの懸念が減り、採用担当者も「次は長く働いてくれそうだな」と思つても

方法ですよ。

今後のキャリアプラン、人生設計を明確に伝えることも、採用担当者に安心してもらうためのよい方法ですよ。

転職回数が多い場合、どう説明をすれば不利にならない?

「何回くらい転職をしてしまったのでは?」と不安になつてしまつて…。

転職回数の多さをマイナスと判断されないために、どう気をつけねばよいのでしょうか。

